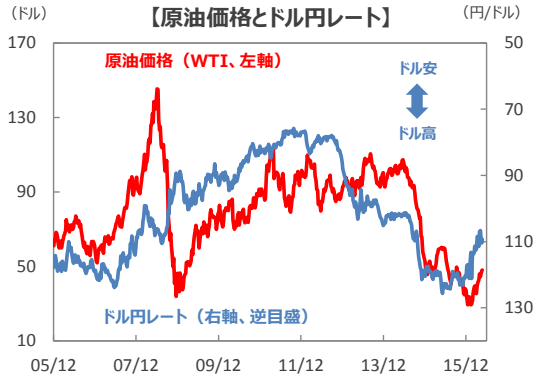


今日のトピック 資源価格の動向

原油は当面底堅いが、鉄鉱石は下落基調続く

ポイント1 原油は40ドル台後半に回復 底値は固まった公算

- 原油価格（WTI先物、直近限月）は、2月に1バレルあたり26ドル台と約13年ぶりの安値水準をつけましたが、その後は反発に転じ、最近では40ドル台後半での推移となっています。
- 4月半ばの産油国会合では、生産量凍結が合意されませんでした。米国の原油生産量が昨年半ばの960万バレル/日をピークに900万バレル/日まで減少してきたうえ、カナダ、ナイジェリア、ガーナなどで生産障害が発生したことが背景にあります。



ポイント2 鉄鉱石市況は反落 中国の鋼材市況下落が背景

- 鉄鉱石市況は今年に入り急反発しましたが、5月に下落に転じています。中国が豪州などから輸入する鉄鉱石のスポット価格は、4月後半には底値から約7割上昇しましたが、5月に入ってから2割以上下落しました。
- 中国の鋼材市況の反落が要因です。代表品種の熱延鋼板の市況は、政府の経済対策への期待などから、今春には急騰しましたが、市況上昇で休止設備の再稼働が伝えられるなど、需給緩和の観測が出てきたため、4月末からは2割程度下落しました。



(注) データは原油価格が2005年12月30日～2016年5月23日（週次）、鉄鉱石、熱延鋼板が2011年4月22日～2016年5月23日（週次）、熱延鋼板は5月20日まで。週末が祝日の場合は前営業日のデータ。原油価格はWTI先物の直近限月。鉄鉱石の価格は、中国鉄鉱石輸入価格（粉鉱62%CFR天津）。（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 原油は底堅い推移へ、鉄鉱石は中国の景気と鋼材市況がカギ

- 原油の市況については、当面底堅い推移が予想されます。6月2日にはOPEC総会を控えているうえ、需給に関しても、IEA（国際エネルギー機関）は、需要が堅調なうえ、米国のシェールオイルの減産などから、年後半には供給過剰が解消方向に向かうとの予測を立てています。
- 鉄鉱石市況に関しては、逆に軟調な推移が続くそうです。鋼材市況が在庫増から弱含む可能性が高いためです。中期的には世界需要の約4割を占める中国の景気動向と、鉄鋼の過剰設備の処理が本当に実行され、鋼材市況が維持できるかどうか今後の市況のポイントになりそうです。

ここもチェック! 2016年 5月19日 最近の指標から見る中国経済（2016年5月）
2016年 4月18日 「産油国会合」は合意に至らず（グローバル）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。